

指標

北海道医師会の 財務の現況と課題

常任理事・財務部長

北野 明宣

平成24年9月16日の第138回臨時代議員会で北海道医師会は一般社団法人への移行を承認された。平成25年4月より北海道医師会は一般社団法人北海道医師会として認可され平成25年度決算より新法人と

して決算を行なうこととなった。

決算は従来の収支決算を中心としたものではなく、財務諸表等が決算承認書類となった。主として貸借対照表、正味財産増減計算書ならびに附属明細書、内部管理資料（収支計算書、収支明細表科目説明書）が決算承認対象となった。

また、一般社団法人になったことに伴い、7年間は毎年「公益目的支出計画実施報告書」を北海道に提出する義務が発生し、現在も適切に処理している。

正味財産増減計算書を新様式に変更したことによるメリットは法人全体が決算ベースになるため常に法人の全体が明らかになり実施事業等会計、その他会計、法人会計ごとの損益を明らかにできることである。

当会における財務諸表のバランスは幸いに過去10年間健全な状態を保っている。

（表1）貸借対照表及び正味財産合計は、平成25年度から平成29年度の5年間は微増ながら良好な伸びを示し医師会活動が健全な歩みをしていることを示している。

一般社団法人認定後の年度別財務諸表

表1 貸借対照表

（単位：円、％）

科目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 固定資産合計	2,995,660,977	3,129,259,188	3,286,379,749	3,432,924,639	3,457,522,531
2. 固定負債合計	619,125,431	629,208,931	659,077,280	698,033,228	648,865,394
3. 一般正味財産合計 （負債及び正味財産合計）	2,376,535,546	2,500,050,257	2,627,302,469	2,734,891,411	2,808,657,137
前年対比伸び率		4.46	5.02	4.46	0.72

正味財産増減計算書

科目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 経常収益計	1,362,673,935	1,299,615,996	1,319,313,038	1,329,829,039	1,315,985,587
2. 経常費用計	1,259,341,611	1,161,378,185	1,180,424,826	1,214,190,997	1,234,406,161
3. 法人税、住民税及び事業税	663,900	14,713,100	11,636,000	8,049,100	7,809,800
4. 正味財産期末残高	2,376,525,546	2,500,050,257	2,627,302,469	2,734,891,411	2,808,661,037
前年対比伸び率		5.20	5.09	4.10	2.70

しかし、今後の北海道医師会運営の中で会員数・会費賦課、会館管理、事業費用について課題があり、以下この3つについて述べる。

1. 会員数、会費収入減少と会費減免者数の増加

昭和22年11月11日、新生北海道医師会が田中敏文北海道知事の許可により設立されてから71年経過した。爾来、会員数や各部において右肩上がりの成長を得てきたが、最近その成長にもかげりが見られている。

（表2）北海道の医師数は増加傾向にあるが、会員数は平成21年度8,394人をピークに減少に転じている。A会員は平成25年度2,506人から平成29年3

月末現在2,450人と過去10年間減少傾向となっており、B会員は増加の傾向、C会員は減少している。

A会員の減少による会費収納の減少が認められている。会費増額や新規会員の増加ならびに勤務医の入会勧奨を行ってきたがその結果は著しいものではない。それに加えて、会費減免者数の増加が認められている。

昭和42年度に施行した定率会費を平成26年6月定款施行規則の改正により、グループ経営病院の管理者ごとに賦課することに変更した。その効果もあり、平成20年度をピークに減少した会費収入も平成26年度より増加傾向に転じている。

表2 北海道医師会会員数（各年度3月31日現在）

（単位：人、％）

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
A会員	2,506	2,485	2,469	2,457	2,450
B会員	5,074	5,055	5,126	5,145	5,170
C会員	634	626	615	630	630
計	8,214	8,166	8,210	8,232	8,250
会費減免者人数	1,023	1,012	1,056	1,109	1,171
減免会員の比率	12.45	12.39	12.86	13.47	14.19
道内医師数と医師会の組織率		62.88		62.43	

（調査年度の12月31日現在）

（北海道の調査は2年度後実施）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
北海道の医師数		12,987		13,187	

（表3）北海道医師会定額会費収納額は平成25年20,509万円、平成29年度20,402万円、定額会費減免額も平成25年度2,644万円から平成29年度2,855万円に増加し、定額会費に対する減免会費の比率が

12.89％から13.99％、会費収納に対する減免会費の比率が4.17％から4.23％まで増加している。また定率会費は平成25年度63,453万円から平成29年度67,506万円となっている。

表3 北海道医師会会費収納一覧（各年度3月31日現在）

（単位：円、％）

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
定額会費収納額	205,090,000	204,513,000	204,536,000	204,818,000	204,020,000
定率会費収納額	429,440,037	452,097,818	470,598,696	471,727,047	471,041,689
会費収納額合計	634,530,037	656,610,818	675,134,696	676,545,047	675,061,689
定額会費減免額	26,444,000	25,924,000	26,088,000	27,012,000	28,552,000
定額会費に対する減免会費の比率	12.89	12.68	12.75	13.19	13.99
会費収納に対する減免会費の比率	4.17	3.95	3.86	3.99	4.23

2. 会館維持管理について

過去10年間安定基調で順調に推移している。会館管理収支も過去5年間順調である。

現北海道医師会館は平成30年5月現在、建築後42年経過した。平成23年の東日本大震災を機に会館の保全計画見直しを図り、平成24年度より耐震診断を行った。会館耐震強度は震度5までであるが平成24年度の中長期保全計画検討委員会によると会館本体は今後20年以上の使用に耐えるものと判断されたが、会館空調等の設備の老朽化が認められ数年以内に設備改修工事を行なうことが望ましいとの提言を受けて、担当部で検討した結果、経費の面から建て替えが困難と判断された中、早急な耐震化補強工事の実施は見送り、会館中長期保全改修工事を（総工事費4億6千万円）平成29年4月より実施、現在平

成31年3月末の完成に向けて工事中である。同時に会館維持管理に努め将来の改築を念頭に毎年計画的に約1億円程度の改築費積立を行っている。今後、20～30年の間に会館全面改築工事に向けての資金調達課題であり、併せて新築に向けた工事計画を検討していくことが望ましいと考える。

3. 事業費用について

会員減少、会費減免者の増加により会費収入が大幅に増加することが期待できないことや（表4）総人件費合計が平成25年度39,845万円から平成29年度41,752万円まで右肩上がりに増加し、収入に対する人件比率は平成25年度29.50％から32.30％と増加し、役員は4.58％から4.79％、職員は24.92％から27.50％まで大幅に伸びている。

表4 人件費

（単位：円、％）

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1. 役員報酬等	61,895,000	61,364,000	62,259,000	62,815,820	61,975,270
2. 職員給料手当等	336,555,953	322,764,140	312,043,663	325,849,557	355,551,013
総人件費合計	398,450,953	384,128,140	374,302,663	388,665,377	417,526,283
事業活動収入	1,350,513,710	1,287,115,089	1,306,465,966	1,315,714,237	1,292,811,758
収入に対する人件費率	29.50	29.84	28.65	29.54	32.30
役員に対する人件費率	4.58	4.77	4.77	4.77	4.79
職員に対する人件費率	24.92	25.08	23.88	24.77	27.50

注記 1. メディコ北海道出向職員を除いた金額です。

2. 事業活動収入はメディコ北海道出向職員給与等負担金収入を除いた金額です。

今後はある程度の経費節減に努めることが重要である。そのためには会員、職員、ならびに役員の協力は不可欠である。目標は出費を抑えることである。抑制しすぎてモチベーション低下を招くことは避けるべきではあるが、できることから実行していくこ

とが大切である。北海道医師会は地域医療、医療・介護連携等の多くの事業を積極的に進めるためには事業費の確保が必要になることから、経費削減に向けたさらなる検討が必要である。

4. 今後の検討事項について

① 旅費について

(表5)のように会議、研修会等の出張旅費は暫時増加傾向にある。

職員の健康管理及び日常業務を配慮した人数での出張で効率化を図ることにより、経費節減につながるものである。

表5 諸経費（出張旅費）

(単位：円)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
会議・研修会・学会等出張旅費	38,600,010	42,963,520	52,355,470	43,271,410	46,966,598

② 超過勤務手当について

(表6)のように漸減ながらも超過勤務手当がかなりの金額になっている。現在全国的に労働者の働き方について検討されているが当会も例外ではない。会員職種の特殊性からいわゆる平日業務が困難にな

ることが多いので医師会自体もそれになるべく合わせる必要がある。他業種（例えばデパート、自動車販売業務、他団体）を参考に職員、役員等の協力を得ながらフレックスタイムの導入が望まれる。

表6 諸経費（超過勤務手当）

(単位：円、人)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
超過勤務手当	25,023,020	23,367,940	24,164,190	21,847,940	20,859,810
支払人数	41	42	39	39	42
(1ヵ月平均額)	2,085,252	1,947,328	2,013,683	1,820,662	1,738,318
(一人当たりの平均額)	50,860	46,365	51,633	46,684	41,389

③ タクシーチケットについて

(表7)のタクシーチケット使用については、

今後医師会活動は多岐にわたる事業が多くなることを踏まえて明確なルール作りが望まれる。

表7 諸経費（タクシーチケット使用料）

(単位：円)

区分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
タクシーチケット使用料	7,017,660	6,450,720	7,087,190	7,382,750	7,136,750

当会は、道民が安心して医療を受けられるように活動し、良質で切れ目のない医療を守る責務を負っている。その責任の自覚のもと、役員および職員が個々の事業費用の節減に向けて積極的に取り組み、

会員から徴収した会費を有効に使用し、健全な医師会活動および健全な財政運営を行うように財務部長としての任務を果たしていきたい。